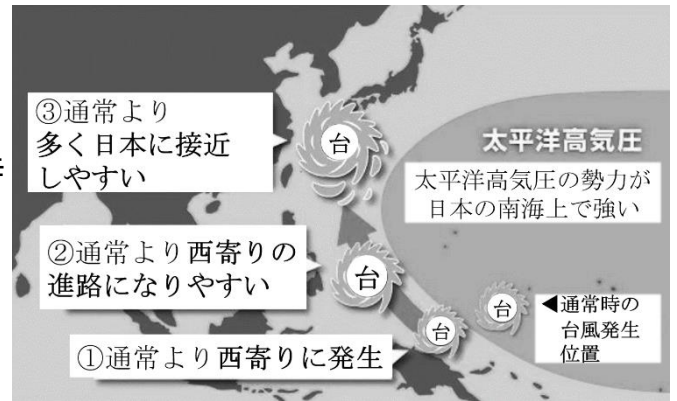


大雨・暴風に備えよう！

今年は8～10月にかけて太平洋高気圧が強く、その後退が遅くなる見通しとなっています。また、ラニーニャ現象の発生が見込まれています。そのため、台風は本土(本州、北海道、九州、四国)に近づきやすい予想となっています(右図、日本気象協会)。

荒天に備えて、施設の状況や天候悪化時の対応を確認しておきましょう。

なお、天候が悪化してからの外作業は危険です。前もって準備を行い、その後は、天候が落ち着いてから対応しましょう。



1 平常時からの備え

- ・ 牧草ロールなどを草地に置いたままにせず滞水や風雨にさらされる恐れのない場所に移動する。
 - ・ 畜舎や付帯施設を点検し、強風等による倒壊、破損がないよう補修する。
 - ・ 畜舎内の整理整頓を行い、つまずきなどの事故予防につとめる。
 - ・ 停電に備え、懐中電灯の電池、工具の配置、自家発電機の燃料や動作の確認を行う。
 - ・ 断水に備え、給水タンク等の準備、または使用方法の確認を行う。
- ※下線部は昨年見られた状況です。しっかり備えましょう。

2 天候悪化(大雨、暴風)の予報が出た時の対応

- ・ スコップやパレットなど、風で飛ばされそうなものは屋内に移動する。
- ・ 漏電の危険がある電源コードなどは、屋内に移動する。
- ・ ハッチなど風であおられそうなものは、重しをするなどの対策を行う。
- ・ シャッターや扉は、雨の吹き込みや風であおられないように閉めておく。
- ・ 放牧牛は牛舎に収容する。やむを得ず放牧する場合は、氾濫する危険がある河川周辺の放牧地は避け、なるべく目の届く放牧地を使用する。
- ・ スタックサイロや牛舎などへの浸水の恐れがある場合は、あらかじめみず道を作るなどしておく。

3 天候が落ち着いてからの対応

- ・ 施設や牛の状態、ほ場(取付、草地・飼料用とうもろこし)、貯蔵飼料に異常がないかの点検、確認を行う。異常があった場合は、状況に応じた対策を講じる。
- ・ 停電が発生していた場合は、通電後、ミルクカー・バルクなどの作動の点検、確認を行う。
- ・ 断水の復旧後は、使用する前に水ににごりがないかを確認する。

災害発生時の対応は、当センターHPに掲載しています。
HPは「[宗谷農業改良普及センター 災害時など緊急対策情報](#)」で検索
または、右のQRコードからアクセスできます。

